

刊行物の「案内」

刊行予定

『新編西尾市史研究』第三号

A4判 平成二十九年四月中旬刊行予定

ただいま編集集中！

市史編さんの過程の調査・研究の成果をいち早くご紹介します。

(内容) 「三河吉良氏と京都本光院」「西尾藩主松平乗寛時代の財政改革」「地域社会の近代化と農民の「日常」―幡豆郡幡豆村七番組『牧野日記』をとおして(2)―」「清水遺跡に関する稲垣晋也氏草稿と人類学博物館資料」「徳川美術館所蔵の八王子貝塚注口土器について」「西尾市のミカワギセルについて―愛知県指定天然記念物(西尾市のミカワギセル生息地)および模式産地(三ヶ根山)を調査して―」「幡頭神社の獅子頭・鬼神面・獅子狛犬」「佐久島弁財天坐像について」「金蓮寺弥陀堂木材年代測定について」(予定)

既刊

岩瀬文庫特別展『新発見。新知見。』新編西尾市史中間報告展Ⅰ『図録(7頁参照)』

A4判 23頁 500円

岩瀬文庫休憩室で販売中

資料や情報を

お待ちしています。

西尾の歴史や文化、風土に関する資料がありましたら、お知らせください。今後の市史編さん活動に役立てます。

- ・古文書や古い日記など
- ・戦前の市内で刊行された雑誌

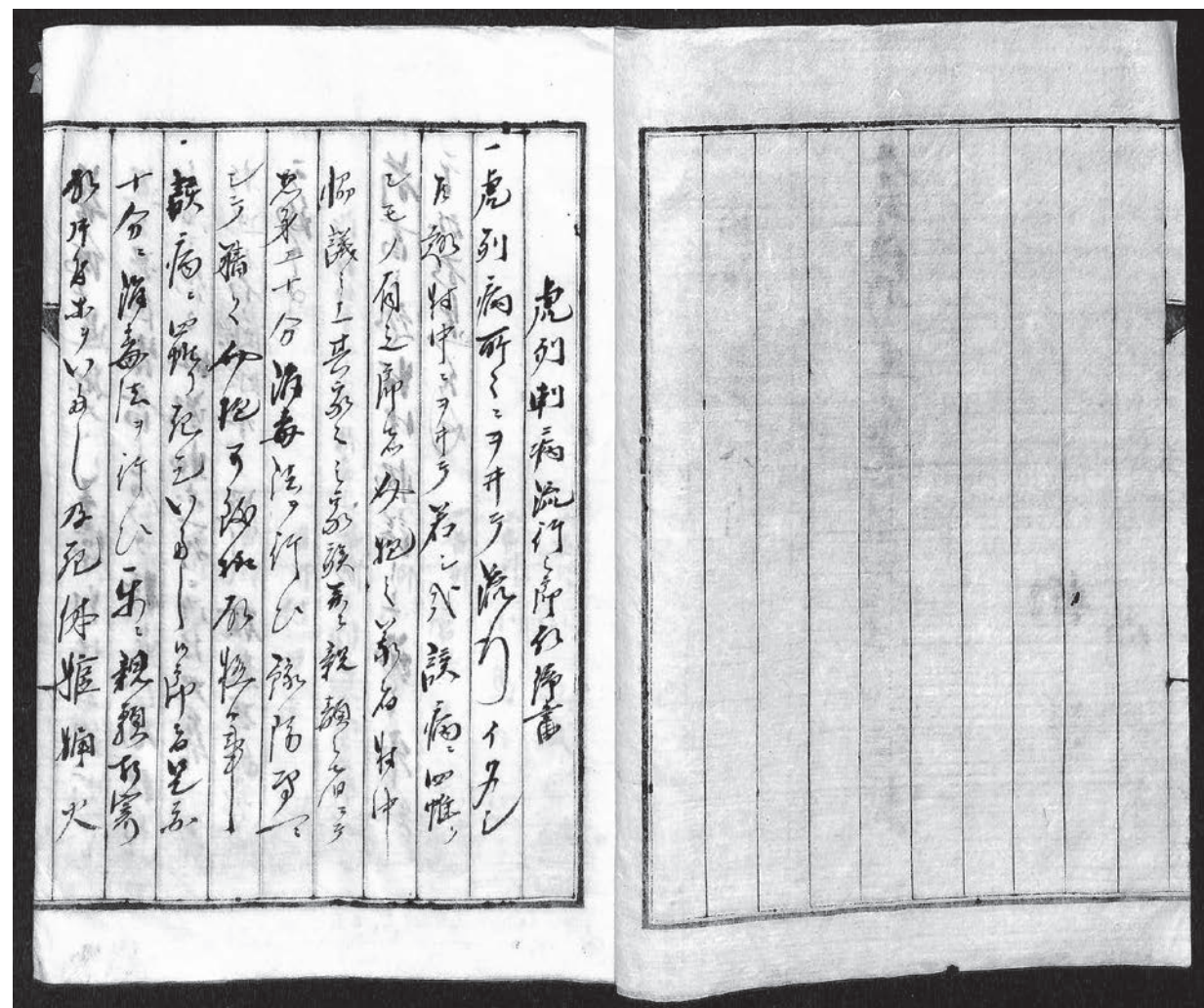
自然調査にご協力ください。

(1) 自然部会の専門委員が、市内の動植物・地質などの調査を実施しています。「調査中」の赤い腕章を付けていますので、ご理解とご協力をお願いします。

(2) 野草の撮影のため、目印に看板やビニール紐の囲いを設置させていただくことがあります。草刈り際には該当する野草(数本程度)を残していただきますようお願いいたします(撮影は数日で終了します)。

(3) 野ネズミやモグラ、コウモリなどの生息調査のため、草むらや洞穴に罠を仕掛けます。看板を付けますので、草刈りをされる場合は、看板の連絡先までご一報ください。

(4) 市内のカヤネズミの巣を探しています。カヤネズミは、体長6cmほどの日本一小さなネズミで、愛知県の絶滅危惧Ⅱ類(VU)に定められています。ススキやカヤなどの草むらに、地上1m



①「本郡役所ヨリ達シニ基キ虎列病〔虎烈刺病〕流行御取締書」

資料紹介

楠村町町内会資料より

新編西尾市史の編さんにあたっては、明治以後の近現代の史料収集や整理も進めています。そんななか、楠村町町内会会長の松井孝夫氏から、町内会に残っている史料をお預かりして整理する機会をいただきました。明治から昭和前期のこの地域のようすを知る重要な手がかりとなる史料ですので、何点かをご紹介します。

①「本郡役所ヨリ達シニ基キ虎列病〔虎烈刺病〕流行御取締書」明治十五年八月楠村衛生係(写真上)明治初年代から二十年代にかけてコレラが愛知県でも何度も大流行しました。これらは致死率が八割以上もありましたので、大問題となりました。県や各郡は、患者の隔離や消毒を徹底するように各村にもとめました。その対応を詳しく示したのがこの史料です。コレラへの対応を村民に詳しく注意し、最後に内容を理解し、承知したことを示す村人の署名と押印を取りました。

程の高さに草を丸め、ソフトボール大の球形の巣を作ります。市内で写真(下段)のような巣を見つけたら、日にちと場所(町名・字名など)をお知らせください。



担当・お問い合わせ

西尾市教育委員会文化振興課 市史編さん担当
〒445-0847 西尾市亀沢町480
西尾市岩瀬文庫内

TEL 0563-56-2459
FAX 0563-56-2787
E-mail iwasebunko@city.nishio.lg.jp

②「雑種目達留」明治十五年
(一八八二) 一月ヨリ 楠村戸長役場
(写真下段右)

当時の村役場に県や幡豆郡から出された達(たつし通達)、あるいは、村民から村役場に出された届等をまとめたものです。西尾で行われる共進会へ出品する「綿」の出品希望者が多かったこと、郵便局を作るにあたっての注意、海藻を取る「採藻同盟」を作る話等々、当時の村の行政的な動きだけでなく、暮らしの様子もわかる史料です。

③「田植始終」明治廿年(一八八七)
六月十九日 平坂村役場外四ヶ村
戸長役場(写真下段左)

田植えを始める時期、終える時期を村役場が決め、通知したものです。農休日まで指定してあります。村役場が田植えの日にちを決めていたことが、興味深いことです。田植えは個々の家だけではできなかったためこうしたのでしょう。新暦と旧暦が併記してあります。

④「大字楠村扣」
年代も不明(多分、明治時代後期)、タイトルも「大字楠村扣」と

あるだけの資料です。内容は村内の各家の畳数の一覧です。幡豆郡でもしばしば軍事演習が行われ、その際に民家を使用して宿舍としたため、あらかじめ各家の畳数を調べたものと思われる。当時の家の大きさがよくわかります。

⑤「議事録」昭和拾五年(一九四〇)
二月二十二日 大字楠村

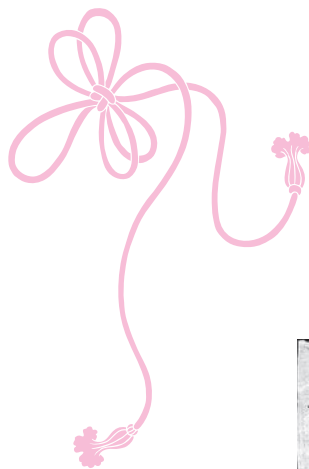
昭和十五年から戦後にかけての大字楠村の協議会の議事録です。戦死者の遺骨が帰ってきたこと(十五年七月四日)、配給品の受取り(十六年二月八日)、天満宮内の貯水池の設置(同年五月十五日)、青年会の太鼓の皮の張り替え(十七年九月二十二日)等々、この村で起きた大小さまざまな問題が協議されたことがわかります。また村の仕組みもよくわかります。

西尾市史編さん室では、新しい史料が見つかる、史料がこれ以上虫食いにならないように燻蒸処理をします。次に、一点一点ほりを落として、史料の内容から目録を作成し、史料を中性紙の保存用封筒に収めま

す。特に注目すべき史料は写真撮影も行い、写真データも目録データや史料と共に保管します。

近現代の史料は、いわゆる古文書以外の史料を含みます。たとえば、個人の日記や、幡豆郡内で発行された雑誌・新聞、青年団の会報等々です。皆様の身近にそうした史料や古文書がありましたら、ぜひご連絡ください。それが、西尾市の歴史上、貴重な史料となるかもしれません。

近・現代部会
編集委員 岡田洋司
事務局 永田悠子



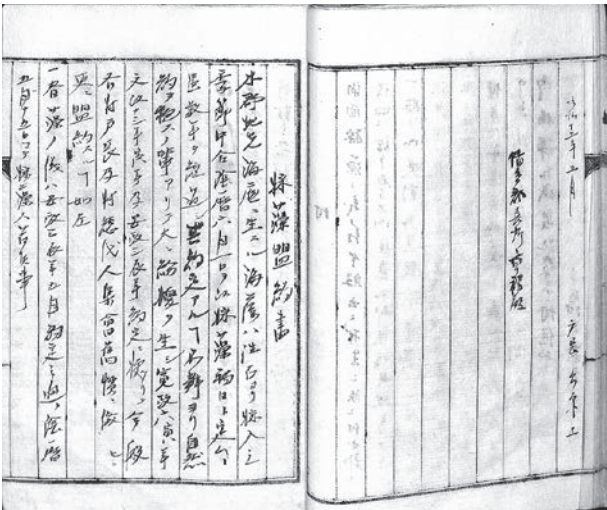
このような、西尾市内ではないが、かつて幡豆郡に属していた地域にかかわる史料も収録する予定です。

あと、東浅井町・西浅井町と上羽角町・下羽角町の間にはさまれた岡崎市の中島町は、碧海郡内ですが、特別に対象地域に加えることにしました。浅井・中島・羽角は並んでいるので、地理的な視点からみて、中島も範囲に入れたほうが良いと判断したからです。

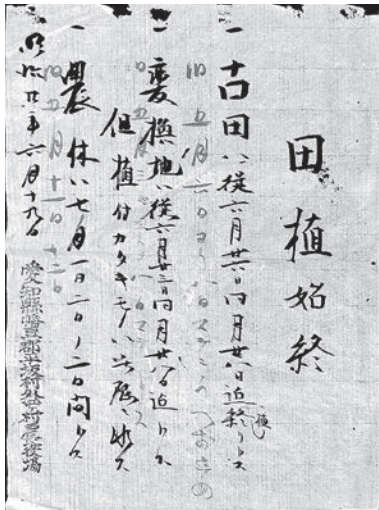
衣浦湾に面した大浜から、渥美湾に面した東幡豆をつなぐライン(大浜・鷲塚・米津・高落・中島・羽角・六ツ栗・東幡豆)から南の一角が、対象の地域になります。

このように地域を限定して、この範囲にかかわる地名や寺社名などが記載されている史料を集めることになります。ただ、それだけでは十分ではなく、この地域に関わった人たち、とくに吉良氏などの領主にかかわる史料も集めねばなりません。

中世の西尾(もとの西尾市と吉良町の一帯)には吉良荘という荘園があり、足利一門の吉良氏が領主として入り、やがて西条(西尾)の吉良氏と東条の吉良氏の二流に分かれて統治を続けました。こうした吉良氏にかかわる史料は広く集める予定です



②「雑種目達留」



③「田植始終」

す(ただ関東に本拠をもつ吉良氏の史料は除外することにしました)。

吉良氏のほかにも荒川氏や、吉良氏の被官だった大河内氏・富永氏などの領主たちがいます。またもの幡豆町の一角は吉良荘には含まれない独自の地域で、戦国時代には小笠原氏がいて、海の世界とかわっていました。また吉良氏が没落したあとには、東条松平家忠や松井忠次といった人たちが地域支配を担いました。こうした領主たちの関係史料も広く集めてみたいと考えています。

中世の西尾地域の歴史は、興味深い素材に満ちていて、吉良氏やその周囲の人々の動きを解明することも大きな意味があります。歴史の研究に役立つとともに、地域の方々にも親しんでもらえるような、充実した資料集を作りたいと思っています。



11月19日の西尾城シンポジウム3。市史編さんの成果の一部が発表された。



中世部会 編集委員
山田 邦明

中世部会は平成二十六年(二〇一四)八月に一回目の会議を開き、資料編の編集方針について議論を始めました。その後、部会のメンバーが各自の分担に従って、関係する史料の収集を進め、年に二回の会議で結果報告と討議をしています。

資料編における中世の時代の範囲は、とりあえず文治元年(一一八五)から慶長五年(一六〇〇)までにしました。古代と中世の境については、さまざまな議論がありますが、『愛知県史』資料編8(中世1)のはじまりが文治元年なので、これに準拠しました。平氏が壇ノ浦で滅亡し、源頼朝がのちに守護とよばれる統率者を各国に置いた年です。

中世と近世の境をどこにするかという問題は、もっと複雑です。戦国時代の末にこの地を治めた徳川家康は、天正十八年(一五九〇)に関東に移封となり、そのあと岡崎城主の田中吉政が西尾の地も統治しました。



善光寺沢南古墳
現地説明会のようす

主な活動記録

(平成28年4月～12月現在)

●編集委員会 4月15日

●考古部会 4月22日

●部会

6月25日・12月23日

●調査

4月～

8月8日～30日

12月9日

8月21日

12月9日

12月13日～15日

市内出土人骨の人類学的調査

島出土品調査

同現地説明会

山の神塚古墳(一色町佐久

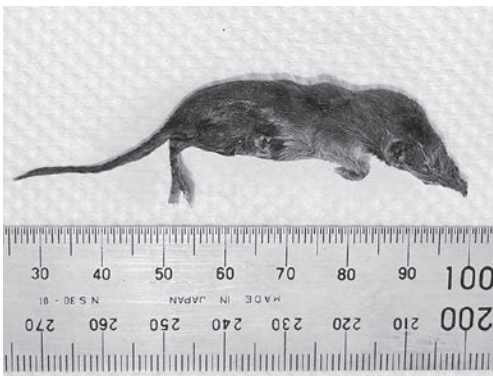
島)出土品調査

調査報告 西尾市の哺乳類

昭和四十八年に刊行された前回の市史から既に四十五年が過ぎています。この間には合併もあり、また、市内の環境も大きく変わりました。ここでは、旧市史で報告されなかった哺乳類で、今回の調査で確認できたものについてお知らせします。

トガリネズミ目トガリネズミ科ジネズミ *Crocidura dsinezumi* TEMMINCK

雌でまだ垂成体(子どもと親の間ぐらい)、体重5.0g(百円硬貨と同じくらいの重さ)、頭胴長(頭から肛門までの長さ)49mm、尾の長さ26mm。



ジネズミ

黒く見えますが、深い黒褐色です。歯は白く、よく似たトガリネズミの仲間歯が褐色あるいは赤いので、区別ができます。ジネズミは低地に、トガリネズミは標高の高い所に分布しています。旧市史ではジネズミの項目はなく、げつ歯目ネズミ科の中のアカネズミの別名として記録されています。この地方では方言として使われているのかもしれませんが。

ジネズミはモグラの仲間、目は退化して瞬(まばた)がなく、眼球は退化して皮膚の下にあるため、目から光を感じる事ができません。写真の様に前足は細く、モグラの仲間でもトンネルを掘ることは少なく(手がモグラよりネズミに近い)、地上を歩くことも多いモグラです。写真は、佐久島の中央部付近で陶芸を始めた坂井愛子さん宅の猫が、六月二十九日に捕まえたものです。以前にも捕まえたことがあるそうなので、佐久島で繁殖しているのは確かでしょう。このモグラの仲間はお腹に臭いを出すところがあり、ネコなどもあまり食べないようです。

形が近いジャコウネズミ属のジャコウネズミは、九州から沖縄にかけて

て生息し、民家の中まで住み着き、船などで移動することも知られています。子どもが親の尾をくわえ、次の子が前の子の尾をくわえて数珠繋ぎの列を作って移動することも知られています。沖縄では、「ビーチャー」と呼ばれていて、よく鳴きます。ジネズミは船などで移動できるような生活はしていません。食べているものは、主に昆虫やミミズなどの動物食です。

ジネズミは恐竜時代の終わり(およそ七千万年前ごろ)に出現した哺乳類に近い形であると考えられています。ネズミのようですが、歯の数が多く、ツパイと言う原始的サル仲間やイヌなどの肉食のグループも、この様な形から進化してきたと考えられています。

トガリネズミ目モグラ科ヒミズ *Urotrichus talpoides* TEMMINCK

写真は、自動写真撮影装置で取られたもので、西尾市に生息しているのは確かです。昭和四十八年の報告には見られませんでした。ヒミズの形はほとんどモグラと変わりません。尾がやや長く、こん棒状で、荒



ヒミズ

●寄託・寄贈文書整理

4月～12月

●資料翻刻

4月～11月

●近・現代部会

●部会

6月4日・11月13日

●調査

10月19日

●寄託・寄贈文書整理

4月～12月

●近代新聞(『新愛知』)調査

名古屋市鶴舞中

央図書館

4月～12月

●自然部会

●部会

5月18日・11月15日

●調査

市内の地質・植物・動物(哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類・軟体動物・昆虫・蜘蛛など)

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

のべ19回

のべ29回

のべ26回

のべ25回

のべ18回

のべ11回

西幡豆町小野ヶ谷周辺地名の聞き取り調査

杉浦茂左衛門家(上矢田町)文書、楠村町内会文書ほか

のべ22回

のべ92点

のべ70回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

のべ34回

田畑の土手や川の法面などに、下から土の山が出来ているのは、モグラかヒミズです。モグラの土盛は大

きいですが、ヒミズのは目立たないくらい小さいものです。

自然部会 調査員 今泉久祥

執筆員 金森正臣



皇太子殿下行啓のようす

も、「市史を作っている人たちの顔がわかり、親しみがわいた」と好評でした。8月7日には皇太子殿下が岩瀬文庫へ行啓されて本展をご覧になり、大きな話題となりました。

これまでの市史編さん事業の成果の一部を市民の皆さまにご紹介する特別展「新発見。新発見。」を開催し、市内外から四四〇四人にご来場いただきました。

会場では、「崑崙人漂着『伝説』は『史実』である。」「定説覆る！『西尾』の始まりが遡る『謎の美女は吉良家の奥方？』といった刺激的なタイトルと共に20の『新発見』や『新発見』が披露され、来場者からは、「自分の町にこんな歴史があったのは驚き」「市史の完成が楽しみ」との声が聞かれました。また、委員の顔写真入りの解説パネル

会期 平成28年7月16日(土)～9月4日(日)
会場 西尾市岩瀬文庫企画展示室

岩瀬文庫特別展 新発見。新発見。 ～新編西尾市史中間報告展Ⅰ～

日時 平成28年7月24日(日)
会場 西尾市岩瀬文庫 地下ホール

1 「謎の美女は吉良家の奥方？」華蔵寺蔵「禅定尼像」について」本田光子氏(愛知県立芸術大学講師/美術工芸・建造物部会特別執筆員)

2 「村の文明開化」小野ヶ谷村『牧野日記』を読む」岡田洋司氏(元富山国際大学教授/近・現代部会編集委員)

特別展会期中には、委員による講演会も開催されました。最初に本田委員が、旗本吉良家菩提寺の華蔵寺に伝わる女性肖像画について、多くの画像を示しながら丁寧に解説し、桃山時代から江戸時代初期に描かれた女性肖像画の優品であり、像主は吉良義安夫人または義定夫人の可能性がある、との見解が示されました。

次に、近・現代部会の岡田委員が、西幡豆町七番組(旧小野ヶ谷村)の牧野善次郎が明治



展示図録 1冊 500円 好評発売中

特別講座「市史編さんの現場から」

大正期に書いた『牧野日記』をもとに、この地方の農民が近代化の波の中でどのように生活したかを読み解きました。牧野家は、断髪や新暦などの文明開花策に対しては旧来の習慣を守ろうとしましたが、他方で綿作から養蚕へと作物を変え、現金収入を得て生活圏を広げた、との指摘がなされました。

両委員ともユーモアを交えながら市史の調査がどのようにおこなわれているかも紹介し、講演後には満員の聴衆から多くの質問が寄せられました。



岡田洋司委員



本田光子委員



当日のようす

美術工芸・建造物部会

調査

5月15日 精立寺(吉良町寺嶋) 建造物
6月17日 幡頭神社(吉良町宮崎) 彫刻
7月25日 実相寺(上町) 工芸
9月17日 佐久島弁天堂(一色町佐久島) 彫刻
10月18日 実相寺(上町) 建造物
11月23日 専長寺(吉良町吉田) 彫刻
11月24日 観音寺(吉良町宇野津)・満国寺(一色町) 彫刻



幡頭神社彫刻調査のようす

民俗部会

調査

6月4日・9月3日・12月17日

4月5日・10月9日 鹿川組祭祀及びエーン挽き
4月9日・4月16日・11月27日 鳥羽の火祭り
4月18日から延べ45日 吉良地区現地踏査
4月21日・9月25日・10月1日 幡頭神社(吉良町宮崎)
5月8日・7月17日 堤通手長御田扇祭り
7月9日から延べ8日 幡豆地区現地踏査
7月9日 幡豆地区に関する地元協力者の聞き取り
7月9日 幡豆地区祇園祭り(4地区)
7月11日 西尾地区(中畑)
8月6日 打ち合わせ
8月13日 西尾地区(東部)の盆行事
9月3日 吉良地区に関する地元協力者の聞き取り
9月17日 佐久島予備調査
9月24日・11月29日 御櫃割(室町)
10月8日 東幡豆(3地区) 西幡豆(3地区) 祭祀
10月15日・16日 瀬門神社(吉良町瀬戸) 馬駆け神事・御櫃割

10月17日・11月19日 資料整理

10月22日 吉良地区(4地区) 祭祀
10月23日 富田神社(吉良町富田) 祭祀
11月18日 羽豆神社(南知多町)
11月20日 一色大提灯大柱選定(設楽町)
12月18日 てんてこ祭り(熱池町)



てんてこ祭りの稽古のようす

調査にご協力いただいた皆さま、情報をお寄せいただいた方々へ心より感謝を申し上げます。